

脊椎動物は、例外なく1個体1個の「脳」を持っています。我々ヒト（人類）の属する「哺乳類」はもちろんです。巨大なアフリカゾウやザトウクジラから、小さな蚊カヤネズミまで、容積は重さの差こそあれ、平等に脳を持ちます。「鳥類」「は虫類」「両生類」も必ず脳を持っていて、それが脊椎内の神経につながり、体の隅々までの情報を集め命令を送って、記憶し学習し、生命活動を維持しているのです。「魚類」脳を持っています。たとえば日本人にとって馴染みのある魚の一つである「アジ」にも脳があるはずですよ。

北区立十条小学校に出張に行った時に、アジの解剖の授業がありました。十条小学校の先生の指導のもと、6年生の子どもたちは、一人一匹のアジを解剖しながら、体勢、口、えら、心臓、肝臓、胃やその内容物、脊椎内の神経束などを、非常に熱心に観察していました。

主担当の当研究所の先生の解剖が天才的（というよりも神わざ）で、アジの頭蓋骨内の「耳石」や「脳」まで器用に取り出して見せてくれました。私は「アジの脳」というのは初めて見ました。「カマキリ」か「妖怪人間ベム」の顔のように見えるアジの脳も、魚類や解剖学の専門家が見れば、きっと「大脳」や「小脳」などの区別ができるのでしょう。

